

令和4年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県南会場

科目 ④子どもの発達理解

- ◆ 子どもの発達には個人差があり、一人一人の心身の状態を把握しながら、発達段階を理解し、感性や個性を活かしながら柔軟な支援が必要だということを知りました。少ない時間でも子どもと向き合うことで心のゆとりが生まれます。放課後児童クラブでは、家庭と連携して子どもとの信頼を深め、居心地の良い場所となるように心がけていきたいと思います。
- ◆ 子どもの発達には時期区分があり、各時期を経て大人へと進化していきます。その過程では運動や感情、言語や思考、人格や社会性などが培われることを学び、各過程の理解を深めて、支援していくことが大切だと思いました。子どもの能力や考え方には様々な個人差があり、じっくりと傾聴して寄り添い、「ほめて伸ばす」支援をこれからも継続していこうと考えました。
- ◆ 子どもの発達理解について、生涯発達という広い視点から捉えた育成支援の重要性と、支援員の存在の意味を学びました。子どもの行動の背景と個人差を理解しながら育成支援をすることや、安全面に配慮しながら主体的な遊びや生活が可能となるようにという指針に基づき、子どもの幸せを願いながら、心の拠り所となるように継続的に学んでいきたいと思います。
- ◆ 子どもの発達理解の基礎である発達の概念と発達の時期区分を教えてくださいました。それぞれの時期には固有の価値があり、子どもたちは自らの経験を基にして、運動や感情、言語や思考、人格や社会性など新たな能力を獲得し、発達していくのだと分かりました。
- ◆ 放課後児童支援員は子どもの一生の中で児童期という大切な時期に関わる仕事であり、やりがいも感じますが、責任ある職業であることを再認識することができました。放課後児童クラブを利用している児童で、毎日同じ遊びを飽きずにしていて、他の遊びを勧めてみても結局また同じ遊びをすることがありますが、それも少しずつ変化をして成長しているのだと理解する必要があると分かりました。個人の発達段階に目を配り、理解して認め、自分自身も一緒に成長していける支援員を目指したいです。